

堺市の生物多様性にふれる冊子

堺いさものの通信



モンキチョウ

2026 春 号



梅とメジロ



スギナ (ツクシ)



スギタケモドキ



コツバネ



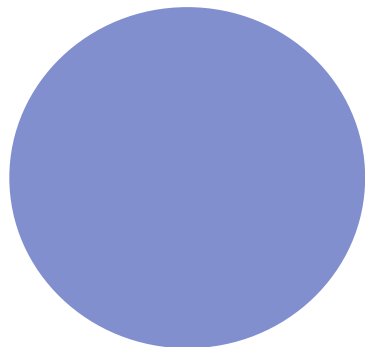
ニホンミツバチ



ニホンカナヘビ



ニオイタチツボスミレ



ツマキチヨウ



アナグマ

堺にすむ

いきものたち

生物多様性とは、単に多くの動植物が存在するという状況を指すだけではありません。地球上にはさまざまな環境があり、その中で生き物同士が「食べる・食べられる・共に生きる」といった多様な関わりを持ちながら成り立っています。このように、多様な生物が相互に関わり合い、生態系を構成していることを生物多様性といいます。

こちらで紹介する生き物の写真は、すべて堺市内で撮影されたものです。WEBサイト「堺いきもの情報館」に、市民の皆さまからご投稿いただいた写真を掲載しています。それぞれの生き物がもつ特徴や、彼らが暮らす環境の姿を通して、堺に広がる生物多様性を感じてみてください。生物多様性は、私たちの身近な日常の中に確かに息づき続けています。

いき
もっと もの知りになれる！
生物多様性のおはなし

揺らぎ始めた“自然の時計”

春は、生きものたちにとって一年で最も大切な「タイミングの季節」です。植物が芽吹き、昆虫が羽化し、渡り鳥が遠くから飛来する、こうした一連の出来事は、気温や日照時間といった環境の変化に合わせ、長い年月をかけて絶妙なバランスで整えられてきました。この季節ごとの生きもののリズムをフェノロジー（生物季節学）と呼びます。

ところが近年、地球温暖化の影響により、この“自然の時計”に乱れが生じています。植物が例年より早く芽吹く一方で、受粉を担う昆虫の活動が追いつかない、渡り鳥が到着したときには餌となる昆虫がすでに減っている、こうしたフェノロジーのミスマッチ現象が国内外で報告されています。

このズレは、生きものの繁殖や生存を脅かし、生態系全体のバランスを崩す可能性があります。そしてその影響は、農作物の受粉や水産資源の変動など人間の食料の安定供給にもつながる問題であり、私たちの暮らしにも決して無関係ではありません。

こうした変化に対応するため、地域の自然を守り回復する「自然共生サイト」の取り組みが注目されています。多様な生きものが安心して暮らし、季節のリズムを取り戻せる場所を確保することは、未来の生態系を支える重要な一歩です。

そしてもう一つ大切なのは、私たち一人ひとりが身の回りの自然に目を向け、小さな行動を積み重ねることです。節電や節水、外来種の持ち込みを避ける、自然観察で季節の変化を記録する、それらはすべて、地球の“時計”を守る力になります。

春の訪れを楽しむその気持ちを、未来の自然につながる行動へ生かしていきましょう。



〈編集・発行〉

堺市環境局 環境保全部 環境共生課

TEL : 072-228-7440 / FAX : 072-228-7317

E-mail : kankyo@city.sakai.lg.jp



WEBサイト
トップページ

ユーザーネーム
sakai_ikimono /



Instagram
アカウント